

# 頭陀袋

31

平成二十七年二月号

発行 中山かんのん

恩林寺



中山中学下、電話三四一―二四五

## 四つの誓い

衆生無辺誓願しゆじやうむへんせいがんとど

すべての人たちが救われ

ますように

煩惱無尽誓願ぼんのうむじんせいがんだん

尽きない煩惱を断ち

切れますように

法門無量誓願ほうもんむりやうせいがんがく

たくさんのおの教えを

学べますように

仏道無上誓願ぶつどうむじやうせいがんじやう

この上ない仏道を成就で

きますように。

さてここに掲げましたのは四弘誓願文しくせいがんもんという願文であります。私たち仏教者は、ことに、坊さんはこの誓願をおこし、仏のおしえに背かないように努力しなければなりません。平成二十六年の除夜の鐘は、なるべくたくさんの方に突いていただきたいと思い、毎年、午後十一時半から始めるのですが今回は十一時より突き始めました。人間の煩惱は百八つあるとのことから基石の白いのを五十四個、黒いのを五十四個準備しまして鐘を一つ突くと用意したべつのはに移す、白いのがなくなると半分終わった。という目安になります。さて私たちの煩惱はたった百八ぐらいでしょうか？

物欲、お金の欲、色欲、名誉欲、食欲、なかなかどうして尽きない煩惱であります。一年のさいご

の夜、この煩惱を捨てて新しい年を迎えるわけですが百八というのは、たくさん、たくさん、と、とらえてもいいのでないか。

こんなわけで基石がなくなって約半時、御近所の方々にお願いいただきました。

来年もどうか、どなたでも、除夜の鐘をつきにきていただきたいと思います。

法門無量誓願学、たくさんのおの教えを学べます

ように。私は昨年暮れに善財童子ぜんさいどうじの由来について

の本を入手いたしました。実は黄檗宗のお経の中に在家の方々が必ずや成仏できますようにという

善財童子が登場する三宝讚さんぼうさんというのがあります。

昔あるインドの大金持ちの息子さん、つまり善財童子が菩薩になる道を求めて善知識（先輩がた）

を訪ねて教えを乞う旅に出ます。先輩方の教えを

ききながらまた、次の先輩を紹介してもらい、ついに五十三人の先輩に教えを乞うと、すでにあな

たは菩薩と同じ修行ができたのだと、仏から認め

ていただいた。と、言う物語です。こうした話が

日本でも庶民の文化に影響して、東海道五十三次

なんて言うのですね。善財童子は、華嚴經（入法

界品）に登場する童子なのですが、皆さんも東大

寺の宝物の写真などで子供が合掌しながら歩いて

おり、ふと、後ろを振り向いているのをご覧にな

ったことがあるかもしれません、耳の上に髪の毛

をカールした（これをみずら）といいますが、とて

も可笑ましい像です。

こうして私たちは長い歴史とともに培われてきた

仏様の教えを、毎日の生活の中に取り入れて、先輩方の守り通してきた、四つの誓いに少しでも触れながら、やり直しのきかない残りの人生を送りたいものであります。